

緑肥栽培技術の改善による 「はなふじ米」の収量向上

大津・南部農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

大津市南部でヘアリーベッチの肥効のみで栽培した「コシヒカリ」は「はなふじ米」としてブランド化され、好評を得ています。緑肥作物の利用は「みどりの食料システム戦略」でも注目されていますが、近年ヘアリーベッチの生育不足により「はなふじ米」の収量が減少していました。

そこで、特に収量の低迷がみられたS集落営農法人を対象として、「はなふじ米」の収量向上を実現するために、水稻の生育に必要な窒素分を緑肥で供給可能となるようヘアリーベッチの生育量を確保することをねらいに、排水対策、播種方法の改善、適期すき込みを支援しました。

【普及活動の内容】

(1)ヘアリーベッチ栽培支援

ヘアリーベッチの生育量を確保するために、「麦並みの徹底した排水対策」を呼びかけ、麦栽培前の排水対策と同様の明きょや弾丸暗きょの施工を助言しました。播種前の耕起の実施や、麦用シーダーによる播種を勧め、実施された結果、十分な出芽数を確保できました。

(2)現地すき込み研修会の実施

排水対策が適切に実施された結果、3月以降のヘアリーベッチの生育は良好となりました。4月12日に現地研修会で生産者にヘアリーベッチの生育量を確認いただき、目標のすき込み目安量を明確に示して、適期すき込みの実施につなげました。

【普及活動の成果】

ヘアリーベッチすき込み後の水稻栽培は、還元害の発生を回避するための水管理を指導した結果、S集落営農法人では、「はなふじ米」の収量が昨年度より3割以上増収しました。

今後は得られた成果を地域の他の集落営農法人へと波及させていきます。



写真1 排水対策とシーダーによる播種



写真2 現地研修会による適期すき込み支援

◎対象者の意見

排水対策によってヘアリーベッチの生育を改善できました。初めて麦用シーダーで播種しましたが、生育は良好で、次年度以降もこの技術を活用したいと思います。(法人代表者)